

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／立岡 裕士

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

2011年度の目標にも書いた、教育力を根底で支えるところの自学的能力・認識の向上を図ることをさらにすすめることが必要であると考えている。したがって、
(1) 授業内容に関しては、限られた講義時間に提供される知識は単なるきっかけにすぎないことをより鮮明にする
(2) 授業方法に関しては、単に参考文献を指示するのみならずそれを読ませることを課題としてすることで、現に必要なより深い知識を身につかせるとともに、自らすすむ必要を実感させる。また読ませた文献についてレポートに関して問題点を指摘することで理解を確実なものとする
ような授業を行うよう心がける。
(3) 評価に関しては、(2)に記した双方向的な活動を反映させるようにする

2. 点検・評価

(1)に関しては、参考文献を補足として指示する形で目標の実現を図った。
(2)に関しては、担当したいずれの授業でも文献の要約を課題として出し、目標の実現を図った。
(3)に関しても達成することができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・授業全般については上記(I-1)に記した形で授業を行うことにつとめる。
- ・学部2年次生の担任であることから、彼らには昨年度と同様に、機会に応じて古典を読む必要性を理解させ、そうした場を設ける。

2. 点検・評価

- ・授業全般については上記(I-1)に記した形で授業を行うことができた。
- ・合宿研修以外に社会の学部2年次生のみを対象とした場を設けることはできなかった。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ・近世地理学の内在的理解をめぐる問題について論文を書く。

2. 点検・評価

- 目標とした論文は執筆中であるがまだ完成していない。
- ただし別に下記2論文を発表した。
- ・globetrotterの捉え方：中野明氏の『グローブロッター』に対する書評として。鳴門教育大学研究紀要, 29
- ・Kashmir3Dによる電子国土基本図(オルソ画像)の地理教材としての利用可能性。教育実践学論集, 15(共著)

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

・課せられた仕事を行う。

2. 点検・評価

課せられた仕事を行った(大学院入試委員・施設委員・社会系コース長・アドミッションオフィサ)。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・徳島地理学会を通して徳島県下の地理学・地理教育の振興を図る。
- ・鳴門西小学校で地図教室を開く。
- ・「県・大学等連携による教職員研修」を担当する。
- ・教員免許更新杭州を担当する。

2. 点検・評価

- ・徳島地理学会を通して徳島県下の地理学・地理教育の振興を図った(特に、年次大会(7月21日)および第21回児童・生徒の地図作品展(11月30日～12月1日)の開催)。
- ・鳴門西小学校(7月31日)で地図教室を開いた。
- ・公開講座「遍路道の遺産をたどる」を担当した(10月21日)。
- ・「県・大学等連携による教職員研修」を担当した(7月25日)。
- ・大学公開の際に模擬授業「地図は社会の中にある」を行った(7月26日)。
- ・附属中LFTを担当した(「モラエスの世界」9月19日)。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)